

- 4) 例えば C. P. HONG, T. UMEMA and Y. KIMURA: Metall. Trans., 15B (1984), p. 101
- 5) 境界要素法研究会: 第1回境界要素法シンポジウム研究発表論文集 (1984)
- 6) J. KIHARA and K. ISHII: Advance Tech. of Plasticity Vol. II (1984), p. 1059
- 7) 木原諄二, 石井研史: 鉄と鋼, 70 (1984), S900
- 8) 佐脇 豊, 神谷紀生: 文献5), p. 121
- 9) 四方博実, 加藤武男, 福武 剛, 皆川俊則, 芹沢保文: 文献5), p. 1
- 10) C. P. HONG, T. UMEMA and Y. KIMURA: Modeling of Casting and Welding Processes, ed. by J. A. DENTZIG and J. T. BERRY (1984), p. 221 [AIME]
- 11) 木原諄二, 馬曉 鵬: 文献5), p. 97
- 12) 落合芳博, 山本博一: 塑性と加工, 25 (1984), p. 612
- 13) 落合芳博, 関谷 壮, 山本博一: 文献5), p. 259
- 14) 吉川文明, 一宮正俊, 高取誠二, 田口憲司, 田中正隆: 第4回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス (日本シミュレーション学会) No. 4-3 (1984), p. 75

— 書 評 —

**Second International Symposium on Metallurgical Slags and Fluxes**

Ed. by H. A. Fine and D. R. Gaskell

1984年11月米国 Lake Tahoe, Nevada で開催されたシンポジウムの Proceedings である。3編の Plenary lectures (Masson, Elliott, Belton) に続いて、73編の論文が、次の10セッションに分けて掲載されている。

鉄冶金スラグ-メタル反応

スラグとフラックスの物理化学-I, 容器との反応

スラグの挙動の数学的モデル

スラグの熱力学的性質

反応速度

非鉄冶金スラグ-メタル平衡

スラグとフラックスの物理化学-II, 非鉄プロセス

移動速度に関する性質

Spectroscopy, 構造と物理的性質

スラグとフラックスの物理化学-III, 鉄冶金プロセス 73編のうち、6編はタイトルと抄録のみであり、これは、印刷時に論文が間に合わなかつたためと推定されるが、シンポジウムの開催から半年以内にこのような Proceedings が読者の手に入ることの利点はこの欠落を補つて余りある。

上述のセッションからもわかるように、取り扱われている論文の範囲は、冶金学、冶金プロセスにおいてスラグが関与するほとんどすべての分野をカバーしており、しかも最新の成果が集められていることから、単にスラグの研究者のみならず、鉄、非鉄冶金プロセスの研究者、技術者にとって良い reference book となるであろう。

なお著者は16カ国にわたり、日本からの発表は21件と多い。  
(福武 剛)

A5 判変形 1116 ページ, Author Index 付

定価 28800 円

1984年 The Metallurgical Society of AIME 発行